TOYO EIWA JOGAKUIN
PUBLIC RELATIONS REPORT
No.51
08.02.08

FÛ EN 楓園

CONTENTS

1 — 特集　学院史料展示スタート
4 — この人に聞く　丸本百合子
5 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえで幼稚園 NEWS
6 — 小学部 NEWS
7 — 中高部 NEWS
9 — 大学 NEWS
11 — 生涯学習センター NEWS・学院 NEWS
12 — お別れの言葉
13 — 聖書の言葉・英和探訪
14 — 行事報告　9月～11月
15 — 英和の植物通信・同窓会より
後援会より・お知らせ

■ さまざまな校章のかたち

普段見慣れている東洋英和の校章であるかえでのマーク。1929（昭和4）年に制定されて以来いろいろな表情を見せながら、1984（昭和59）年の100周年を機に現在のデザインに統一されました。学院に所蔵されている史料からその変遷をたどってみました。

東洋英和女学院

学院史料展示スタート

わたしは植え、アポロは水を注いだ。
しかし、成長させてくださったのは神です。
ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、
成長させてくださる神です。

コリントの信徒への手紙一　三章六～七節

学院史料展示開設にあたって

理事長・院長　池田　守男

創立一二三年目を迎えました二〇〇七年一一月六日、本部・大学院棟のロビーの一角に、学院史料展示のコーナーが新しく出来上がりました。

東洋英和女学院は古き良き伝統を今に受け継ぎ、今日があります。しかしながら、長い歴史を持つ学院であるにもかかわらず、今まで目に見える形で、学院の歴史を感じ取れる場を持っておりませんでした。以前、地域の方々に英和の歴史を写真を通して説明させていただいた折、瞬時に一二三年の歴史を具体的に感じ取って、鳥居坂における英和の存在に対して、深い思いを持っていただいたことを目の当たりにいたしました。その時以来、英和で学ぶ者たち、教職員、同窓生、近隣の方々という、英和に連なるすべての方々にとって、学院史料の展示が意義あるものになると確信し、この事業を進めてまいりました。学院が積み重ねていった歴史の重みを、各人がしっかり受け止め、それを未来に向けて継承していってほしいと思っております。

組織というものは、創立の精神をしっかり守っていくことが大切であります。E・H・カーは「歴史とは現在と過去との対話である」と述べています。ミス・カートメルをはじめ宣教師の先生方の思いがどのようなものであったかを検証しつつ、これから私どもが進むべき道を確認していく必要があると思っております。

小さなスペースですが、多くの方々に是非ご覧になっていただきたいと願っております。

オープニングにあたり各部代表者で礼拝を持ち、池田理事長・院長が挨拶をしました。

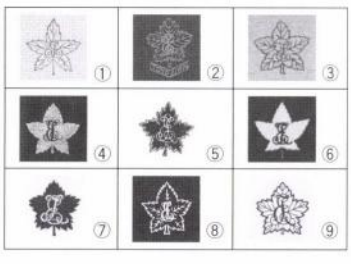
学院史料展示コーナーのご案内

展　示　場　所：本部・大学院棟1階ロビー

見学可能な時間：日曜、祝日以外の本部・大学院棟開館時間内

展　示　内　容：展示内容については随時ホームページ等でお知らせいたします。

お問い合わせ先：〒106-8507
港区六本木5-14-40
TEL03-3583-3325
法人事務局　史料室



表紙の図版解説

①第45回卒業式プログラム（1932年）より
②『東洋英和女學校五十年史』（1934年）より
③東洋英和女学校落成記念絵葉書セット封筒（1933年）より
④校旗（1930年代半ばごろ作成）より
⑤創立65周年記念絵葉書セット封筒（1949年）より
⑥学院案内パンフレット（1954年）より
⑦学院便箋（1980年代半ばごろ使用）より
⑧『東洋英和女学院九十年小史』（1974年）より
⑨『東洋英和女学院七十年誌』（1954年）より

展示概説

学院史料展示コーナーは昨年、学院創立記念日である11月6日に開設されました。123年におよぶ東洋英和女学院の歴史を目で見て、より身近に感じていただけるよう、今まで公開の機会が少なかった学院の史料を紹介していきます。

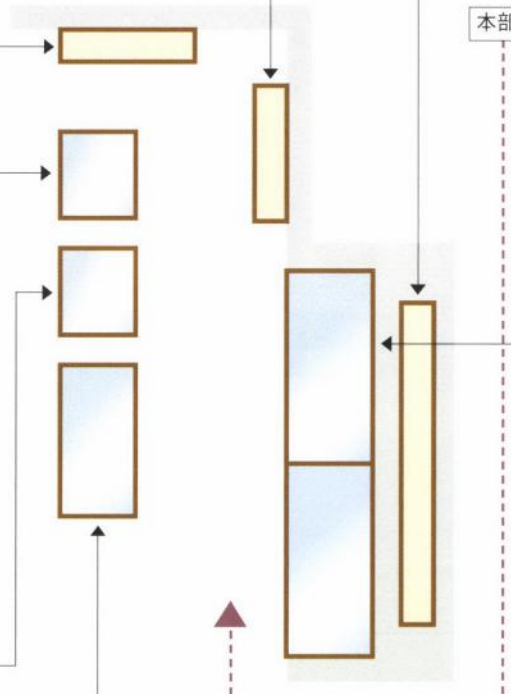
展示は学院創設者のミス・カートメルの記念パネルにはじまり、歴史年表が常設されています。現在は校章や制服、校歌が制定された時期である創立50周年事業の記録資料、ミス・ハミルトンゆかりの食器とカトラリー、時代ごとのさまざまな校章のデザインを記念品からピックアップしたコーナーなど貴重な所蔵品が公開されています。

旧校舎の模型も設置されるなど見どころの多い展示となっております。

創設者ミス・カートメルのパネル。建学の精神が息づきます。

「土地の記憶—鳥居坂と東洋英和」。次の企画は「なつかしの鳥居坂二番地」です。

学院創立から現在までを紹介する年表パネル。学院の歩みが語られています。



「さまざまな校章のかたち」。校章も時代ごとにいろいろな表情があります。

創立50周年事業の記録。この時期に現在の学院の基礎が築かれました。

小学部3年生の見学風景。学院の歴史教育の一環としても利用されています。

校長も務めたミス・ハミルトンゆかりの洋食器。おしゃれな絵柄に先生のセンスがうかがえます。

なつかしいヴォーリズ校舎の模型。屋上や中庭などが忠実に再現されています。

学院の歴史を受け継ぎつなぐ
―学院史料展示コーナー開設によせて史料室の紹介―

史料室は、本部・大学院棟の地下二階にあります。二〇〇三年四月、この新校舎の完成と同時に現在の場所に移りました。一九七五年に史料室委員会が発足し史料室が誕生して以来、初めて校舎建築時から史料室として設計された部屋です。史料室創設以来の約三〇年間、たびたびの移転にも関わらず、たくさんの史料群が損なわれることなく史料室に残されてきたのは、当然のように思えるかもしれませんが、とても大変なことです。

史料室（本部・大学院棟B2F）。右奥は書庫

創立九〇周年にあたる一九七四年に『東洋英和女学院九十年小史』が刊行されましたが、その編集過程で、学院史料の体系的な収集や保管の重要性がより強く意識され、その結果、翌年史料室委員会の発足となりました。初期の史料室委員会の熱心な活動によって古い史料の収集と同時に学院内の各部で日常的に作成される印刷物などの収集も始められました。

史料室委員会収集の史料とともに史料室の核をなすのが『東洋英和女学院百年史』編纂時に収集された史料です。「出来る限り原史料を広く発掘し、これに基いて歴史的に信頼し得る記述態度を貫くこと」「日本の近代教育史およびキリスト教女子教育史の中における東洋英和女学院の位置づけを明らかにし、今後の指針となる校史をつくること」という編纂委員会の基本方針に沿って丹念に収集された史料が一〇〇周年準備室から史料室へ引き継がれました。その内容は宣教師関係史料、公文書の写し、卒業生や旧教職員の手稿やインタビューの記録、新聞記事・参考文献のコピー、刊行物、記念品、教科書・ノート、写真など、実に多種多様です。

これらのほかに学院関係者よりの寄贈史料、各部から移管された日誌や記録類など、他には代わりのない貴重なものがあります。

『百年史』が刊行された翌年の一九八五年、それまでに収集されてきたたくさんの史料の整理のため、史料室に嘱託職員がおかれました。勤務は週一日と限られていましたが、こうして恒常的に史料室業務が始まり、二〇〇三年には常勤職員もおかれて現在に至っています。

史料室のおもな仕事は既存史料・新規受入れ史料の整理と保存、学院内外からの問い合わせへの回答や資料の提供、「史料室だより」の編集、学院発行の年史類の管理や編纂に関わること、などがあります。史料室の運営は、各部の代表で構成される史料室委員会に活動の方針をはかりながら職員が実務にあたっています。

加えて、二〇〇七年秋からは学院史料の展示が開始されました。日々史料室で仕事をしておりますと、"史料そのものの迫力"、"史料が語る力の強さ"を感じずにはいられません。新しく設けられた学院史料展示コーナーでこのような"生きた"史料を少しでも多く紹介していきたいと思います。

長年にわたり蓄積されてきた史料をより広く活用する時がきたことを痛感致します。幸いなことに東洋英和の史料は戦災で焼けていません。創立当初以来のものが残っています。これらは、学院の宝であるのみならず、日本の近代史にとっても大変貴重な存在です。

展示活動が始まった今年度、史料室は新たな一歩を踏み出しました。これからも、受け継がれた大切な学院史料と、現在の東洋英和の営みを、後の世に伝え続ける史料室でありたいと思います。

（史料室　田原綾子）

「史料室だより」
1977年7月創刊。史料室委員会発行の定期刊行物。
現在は年2回の発行で、「思い出の先生がた」「資料紹介」の連載コーナーがあります。最新号はNo.69。近刊（No.65以降）は学院ホームページにてご覧いただけます。

史料の利用について

ご利用希望の方はお手数ですが事前にご連絡下さい。
史料の利用時間　9：00～11：30　13：00～16：30
（月～金曜日）
詳しくは下記までお問い合わせ下さい。
東洋英和女学院史料室（法人事務局内）
Tel 03-3583-3325（代表）　Fax 03-3583-3329（直通）
E-mail：archive@toyoeiwa.ac.jp

この人に聞く……1

慈しんでください、自分のからだを

一九六七年高等部卒業　丸本　百合子（旧姓　山下）

まるもとゆりこ
産婦人科医師。一九七四年東京女子医科大学卒業後、東京厚生年金病院、東京大学医学部付属病院分院、同愛記念病院勤務をへて、二〇〇〇年に百合レディスクリニック（婦人科）開設 http://www.2.odn.ne.jp/yurici。「性とからだの自己決定」という視点から、リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関わる女性グループにも参加。主な著書に『からだを感じよう』（クレヨンハウス）、『女の子の心とからだ』（ゆうエージェンシー）。

からだから見えてくるもの

八年前に婦人科診療所を開設しました。そこで女性の健康にかかわっていると、女性のからだから、暮らしぶり、人間関係、学校や仕事、女性たちの置かれている現状が見えてきます。

からだは正直です。仕事や勉強や課外活動などが重圧になっているとき、人間関係で躓（つまず）いたとき、緊張の強い生活やからだに優しくない生活を続けているとき、からだはアラームを発します。

受診時の訴えは、月経不順や月経痛、慢性的な腹痛だったりですが、よくよく聞くとそれだけではなく、からだ全体が不調なのです。「からだが何かヘン」「いつも疲れてるみたい」「肩こりひどい」「夏でも手足が冷たい」「落ち込む」。一〇代・二〇代でも、中高齢者と同様に心やからだが疲れ果てていて、痛々しいです。摂食障害やリスト・カットも、そして望まない妊娠や性感染症を抱えるティーンもいます。

思春期は、卵巣ホルモンの分泌状態が不規則なため、からだは不安定なのに、「大人になるすばらしい時期」と誤認されています。しかし思春期を「すばらしい」でくくってしまうと、思春期のからだの不調は理解できません。疲れた少女たちが診察室で訴える不定愁訴は、からだがホルモンの変化に揺さぶられているという点で、更年期と似ています。ですから、思春期と更年期という、からだの激変期の不調を共有して、いたわりあえる親子もいます。

ストレスフルな社会

また現代の社会構造は、人間のからだにとってストレスフルです。機械のように正確に、計画的に、能率よく動くことが求められます。「豊作・不作もお天気次第」というわけにはゆきません。

しかし人のからだというのは本来アバウトなもの、時にはグータラになりたいのです。月経周期一つとっても、決められた日に来るとは限りません。からだをフル稼働させれば、過労から様々な不調が起こります。「疲れやすい」というのは、疲れるような生活をしているから、「落ち込む」というのは、憂うつになる原因が身の回りにあるからなのですね。人のからだは機械化された社会構造には、そぐわないものです。

ところが、まじめな人ほど機械のように動かない（動かせない）自分のからだの方を、「おかしい」と思ってしまうのです。本当は人間が機械のように動かされている社会構造がおかしいのに、「自分のからだがよくない」と感じさせられているのです。サプリメントやドリンク剤で、からだの声をねじ伏せようともがく人もいます。そしてそれも無効だったとき、疲れて落ち込んでしまう自分のからだを愛せなくなってしまうのです。

からだの声に耳傾けて

東洋英和では「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」と、神の前に人は、一人一人みんな大切に生かされているということを学びました。しかし今、自分を愛せない人の何と多いことかと思います。自分のからだを愛せない人は、平気で他人を傷つけます。

からだにいろいろなトラブルや不定愁訴を抱えていても、病気や障害と共生していても、それは、かけがえのない大切な自分のからだなのだということを、受け入れてほしいです。自分が大切な人間だと分かってこそ初めて、他者を尊重し、他者を愛することができるのです。

最近は産婦人科や精神科にも、気軽に受診できるようになりました。しかしその反面、本来身の回りの生活や人間関係の改善で対処すべき問題まで、専門家に安易に丸投げしようとする傾向も見受けられます。医療にアクセスする前に、からだの養生をしていますか？　自分のからだを慈しんでいますか？

「子どもたちがわからない」と戸惑う人もいますが、大人であるあなたは自分のからだを愛していますか？　自分を愛せなければ、子どもは大人の嘘を見破ります。誰もがからだの声に耳を傾け、自分のからだを好きになってほしいと思います。

「からだを感じよう」
丸本百合子著
クレヨンハウス
1,260円（税込み）

自分で選んだ一冊の絵本―年長組―

子どもたちはお気に入りの絵本を何度も「これ読んで」と大切そうに抱えてやってきます。絵本の世界は幼児期には欠かせない特別な世界なのです。

一年に一回、自分のお気に入りの絵本を注文できる日があります。学年ごとに教師が丁寧に八～一〇冊の絵本を選び、その中から子どもたちは自分の一冊を選びます。今年も絵本を選べることを子どもたちに伝えると、大喜び。ホールの隅にある絵本コーナーで食後に行いましたが、いつもより速いペースでお弁当を頂く姿が見られました。そして満面の笑みを浮かべて「先生、絵本えらんでくるね」と次々とでかけていき、嬉しそうに絵本を手に取ります。じっくり一人で読んだり、仲間と顔を寄せ合って本の感想を伝え合う姿が見られました。お気に入りが見つかると、そばにいる教師に絵本の題名を書いてもらいます。なぜ選んだかを聞いてみると、同じ絵本を選んでも理由は様々。「色がきれい」「兄弟と見られる」「全部がすてき」「お母様のお誕生日にぴったりの絵本だから」など等。

二週間後待ちに待った絵本を受け取る日がきました。足早に絵本コーナーへ行き、絵本代の入った封筒を先生に渡します。受け取るときの顔と言ったら…こぼれんばかりの笑顔です。自分で選んだ一冊に笑顔がエッセンスのようにふりかかり、更にかけがえのないものとなったことでしょう。子どもも教師もみんなが幸せな気分になれた活動でした。

余談になりますが、今回絵本を選ぶのに大変苦戦しました。教師が良いと思って在庫確認をした中に、何冊も絶版・品切れになっているものがあったのです。諦めがつかずどうにか入手できないか調べたところプレミアがついて売りだされているではありませんか。子どもの頃に読んだ絵本がご自宅にある方はどうか大切になさってください！

＜年長組絵本リスト＞
きんいろのしか（福音館）
ももいろのきりん（福音館）
たんじょうび（福音館）
[地球]そのなかをさぐろう（福音館）
かさどろぼう（徳間書店）
ジルベルトとかぜ（冨山房）
もちもちのき（岩崎書店）
どこへいくの？ともだちにあいに（童心社）
どこにいるかわかる？（こぐま社）
おおきなき（篠崎書林）
＜今回絶版・品切れだった絵本＞
しあわせなふくろう（福音館）
やせたぶた（福音館）
おおきなきがほしい（偕成社）
※復刻版が出る時があるようです

積み木と子ども

かえで幼稚園の子どもたちが楽しんでいる何十種類もの遊びの中で、ホール（礼拝や集会をする広い部屋）に置かれている大型積み木による構成と、そこでのごっこ遊びは一年中いつも展開されているもののひとつです。

ある朝のこと、登園してきた五歳児のAちゃんは急いで支度をすませると、まっしぐらにホールに行き、「よかったー、まだ誰にも使われてない」と声をあげながら、「よいしょ、よいしょ」と積み木を運び始めました。

やがて「いれてー」と、次々に三人の子どもたちが集まってきました。「いいよ、船を作るよ。積み木をどんどん運ぼう」「わかった」。…子どもがひとりで運ぶには重さも大きさもしっかりある大型積み木です。押したり引いたり、二人で持ち上げたりして次々と運び、重ねていきます。「もっと、高くしないかー？」「こっちに運転席、ここは寝る部屋ね？」「ここ、やり直しするよー　ぐらぐらして危ないから」「そうだね…これで大丈夫だよ」等と、ひとりひとりの思いを合わせていきます。何度も形を変えながら、四〇分後にほぼ完成しました。

Bちゃんが、「この船に乗って探検に出かけようよ」と提案します。（クラスで読み聞かせていた『エルマーのぼうけん』（福音館書店）の影響で探検ごっこをよくしていた子どもたちでした）「じゃあ地図がいるね」「望遠鏡も」「作ったのがあるよ」…。保育室に一旦戻って、子どもたちは様々なものを抱えて戻ってきました。その後、子どもたちはたっぷりとごっこ遊びを楽しみましたが、途中で高く積んだ積み木が崩れそうになって修繕したり、意見のくいちがいでもめごとが起こったり、隣りで家を作っていた子どもたちとの交渉をしたり等がありました。（子どもたちはこのように日々様々な出来事に出会い、なかまと折り合いをつけながら生活しています）

遊んだ後は、片付けです。たくさん使った積み木を元通りに戻すことは、なかなかエネルギーのいることですが、これも子どもたちにとっては、遊びの延長。なかまと声をかけ合ってはりきって片付けました。片付けながら、子どもたちの間には、「あしたもやろうねー」という声が行き交っていました。

積み木の船づくり

小学部の給食

宣教師たちから受け継がれて

小学部教頭　山本香織

東洋英和女学院の伝統と校風を作り上げたものの根底には「寄宿生活」があった（『七十年史』）と考えられます。そこでの教育の中心は礼拝と聖書の講義でしたが、同時に厳しくも愛に満ちた宣教師たちによる生活訓練がなされていたようです。そして常に寄宿生と宣教師たちが共に食卓を囲んだ当時の食事の精神が、そのまま小学部の給食にも脈々と受け継がれていると思います。子どもたちの健康的な成長のための場としてだけではなく、小学部の給食では、食事を共にするということに大きな意味を求めています。それは主にある交わりの食卓、「愛餐（あいさん）」を目指しているということです。主にあって一つとされた「家族」が、主によって与えられた食事に感謝しつつ、共に囲む喜びの食卓です。実際神様に感謝の祈りをささげることから始まり、全校児童、全教員が共に食事をいただくとても楽しいひと時がそこにはあります。

二〇〇〇年に完成した現在の校舎では、食堂は二階に移り、総ガラス張りの南側と西側から、緑と光と風を十分取り入れる明るい空間となりました。また食器も陶器のものにすべて換え、「愛餐」としての食事がより温かみのあるものとなるように、また一人ひとりが食器を丁寧に扱うことを目指しています。

11月13日のメニュー：広州焼きそば、カニ玉、きゅうりとわかめの酢のもの、牛乳、バナナ

子どもたちの成長のためになくてはならない日々の食事のうち、三分の一を小学部の給食は預かっています。これからも給食の充実のために努力を重ねつつ、創立以来の食卓の伝統も大切に守っていきたいと思っております。

給食室から

学校栄養士　藤岡やす子

小学部の給食は朝早くから納品されてくる食材を確認する作業から始まります。遠くは成田市郊外の有機栽培の農家から野菜が入りますし、魚や肉類などは温度管理がきちんとなされてきたかなどもチェックします。食材はできる限り国内で生産されたもの、安全が確認できるものを使っています。

その日の給食について調理や連絡を栄養士、調理師、配膳員の人たちと再確認していよいよ調理作業が始まります。大きな回転釜四台が常にフル回転して献立によっては炊飯器やコンベクションオーブンを使い、時間を常に気にしながら仕上げを急ぎます。

お祈りをしていよいよ「いただきます」。お代わりに列ができることもあります。食後に、わざわざ「ごちそうさま」を言いにきてくれる子どももいます。

給食は実際に作っている人以外にも食材を作っている生産者の人、食材を届けてくれる人などさまざまな人の手がかかって作られています。給食が食べられることに感謝するとともに好き嫌いしないで残さず食べてほしいと思います。初めてのものや嫌いなものでも、まずは一口食べてみましょう。

給食員さん　後ろ左から　足立さん　奥村さん　義さん　内田さん　二羽さん　前列左から　藤岡さん　小池さん　川嶋さん　竹茂さん

ホステスの仕事

交流給食では、一つのテーブルに複数学年のお友達が集まって、交流を深めます。ここでは、給食委員がインタビューをしています。

ホステスのお仕事をして

六年生　冨田しおん

ホステスとは、二人の六年生が下級生（一・二年生）のテーブルにつき、給食の配膳や片付け・おかわりなどのお世話をする人のことです。一・二年生はまだ身の回りのことがよくできないので、上級生が手伝います。

時にはトラブルが起きることもあります。例えば、一年生がお皿を割ってしまうことがあります。一年生は、とてもあせってしまいます。そんな時、一番身近にいるホステスが、一年生を落ち着かせてあげます。先生が来るまで、割れた食器から遠ざけ、「大丈夫？」と聞いてあげます。

このように、色々なトラブルが起きた時は、ホステスが臨機応変に対応しなければいけません。これからも、一・二年生が楽しく給食をいただけるように、ホステスのお仕事を行っていきたいと思います。

司書教諭　佐々木 利絵

ります。古本市の開催や、年度末には書架整理を行います。本を請求番号順にきれいに並べなおすことで、整理された本棚で新学年を迎えることができます。楓祭では、図書室のカウンター近くまで公開し、生徒から集めた本の古本市や本に関連したクイズや展示を行い賑わっています。活動委員のお勧め本を掲載した「読楽」を年2回、発行しています。委員には本が好きだったり、図書室に興味のある生徒が多いので、楽しみながら充実した活動をしています。

このように機械化され、スムーズに運営されている図書室をもっと利用してもらうために、中学入学の4月には図書室の使い方のオリエンテーションをしています。そして、学校生活に慣れてきた5月に「図書室をもっと知ろう！」という内容で授業を行い、図書室に親しみを感じてもらっています。

夏休み前には、中学生に向けて図書室から「夏休みに読もう！！」と題して冊子を作り本の紹介をしています。高一では情報の授業と連携して、情報収集の知識を深める試みを行っています。教科では、国語の授業を中心に調べ学習をするときに利用されています。生徒も授業で課題がでるとすぐに関連の本を図書室に探しに来ます。修学旅行の事前学習、国語の高一の作品論、高二の作家論、高三になると入試の小論文の資料を探しに、生徒は学習面でも図書室に頻繁に現れます。事前に教科から連絡のあった場合は、参考資料の展示や関連図書を購入します。また、基礎学力研究委員会では読む力を養うために基本図書リストを作成し、読書を推奨しています。リストの作成にあたっては図書室も関わり、生徒はリストの本を図書室でたくさん借りていきます。また、読書を身近なものにするために、課題のない自習時間を利用して教室に本を貸出せるようにクラス単位に本を揃えています。

カウンターにいると「何かおもしろい本ありませんか？」「お勧めの本を教えてください」の問いかけに始まり、機械的な検索機では探しきれない質問をたくさん受けます。司書教諭の役目としてカウンターでの相談に応じることが図書室の利用に結びついていると思います。学習センターとしての役割を果たしつつ、図書室を利用することが学校生活の一部となってくれるような図書室でありたいと願っています。

高三選択授業「図書」

司書教諭　富岡 暢子

「図書」は高校三年生の選択科目の1つで、週1時間の授業を行っています。今年度は13人の生徒が選択を希望し、少人数でアットホームな雰囲気の中行われました。

「図書」の授業というと、読書をすると思われがちですが、授業のねらいは、「自ら学ぶ力をつけ、その方法を身につける」というものです。具体的には、図書館の使い方を学び、さまざまな情報源があることを理解し、レポート作成法を身につけ、完成させます。

夏休み前までは講義とワークプリントの2本立ての授業を行い、夏休み後は、実際に自らレポート課題を決め、さまざまな資料を活用し、作成・提出します。

授業の中で特に生徒たちが興味を持ったのは、1つの言葉を数種類の百科事典で引いてみることです。事典によって記述のしかたも量も違います。何よりこれまでの人類の知識が書物として構成されているものが「百科事典」なのだ、ということに改めて驚いたようでした。

生徒自身、興味関心のあることがらを課題に決め、さまざまな資料を用い、レポートを提出することは、生徒の今後に役立つのではないかと思います。今年度のレポートテーマを例に挙げると…「宇宙の神秘」「香りと暮らし」「ロワールの古城たち」「犯罪とメディア」「映画でみるヴェトナム戦争」「戦争報道について」「少年犯罪－その現状と心理」「地球温暖化」「ドラマの視聴率」などと、多岐にわたりました。関心のあるテーマであると、取り組みにも熱が入るようでした。ただ、調べ物というとインターネットに頼る傾向にあり、なかなか図書資料の有効性を実感できない状況です。「図書」の授業では、参考図書、新聞縮刷版、雑誌、図書、インターネットと沢山のものにあたることをすすめています。

選択した生徒から、「忙しくて中学生以来なかなか足が運べなかったが、今回の授業で図書室に来られてよかった」「もっと図書室を利用すればよかった」という声もありました。今後も、生徒にとって図書館を有効に利用できる一助となるような授業をしていきたいと思います。

図書室

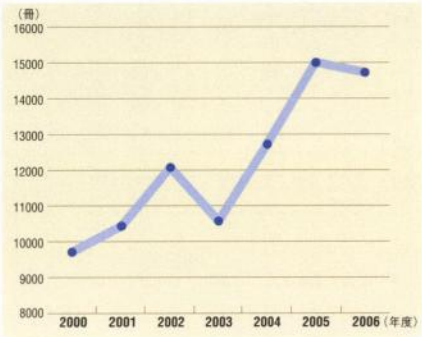
毎朝の礼拝が終わるとすぐに、そして休み時間ごとに必ずといっていいほど生徒が図書室に現れます。放課後までその姿が途絶えることがありません。授業時間中には先生方も頻繁に入ってこられます。授業の準備や読書のためにと利用されています。

1983年7月、百周年記念事業として竣工した新校舎の2階に現在の図書室は、開館しました。図書事務室を含む2階の図書室は約540㎡の広さがあり、約60㎡の閉架式の書庫が3階にあります。閲覧席は97席ありますが、1クラス単位で利用できるように仕切られています。昼休みや放課後は、閲覧席で読書をする生徒、仕切られた奥の部屋で勉強をする生徒、書架のあいだでは友達と本を選ぶ生徒など、さまざまな生徒の姿がみられます。

蔵書は、文学が半数を占めていますが、キリスト教関係、洋書や絵本を含む蔵書に特徴があります。蔵書数はここ数年、約47,000冊を維持しています。毎年約2,000冊購入し、毎週月曜日に新着図書を展示しています。新しい本が入るのを楽しみにしている生徒は、月曜日の礼拝が終わるとすぐに図書室に現れます。1週間展示をしているので金曜日の貸出しのために予約をします。予約人数が多いときには、別に一冊購入し、はやく読みたいという生徒の欲求に応えています。

しかし、収容能力に限りがあるため購入した冊数と同じ量の本を除籍しなければなりません。除籍された本は個人の読書として利用できるものもありますので、校内で古本市を行います。古本市の収益金は献金として捧げ、残った本はリサイクルにだしています。棚に古い本ばかり並んでいると書架が暗くなるだけでなく、生徒は必要な本をみつけにくくなってしまいます。資料的価値のある本の保管は大学図書館や公共図書館の領域とし、学校図書館では中高生に新しい本を適切に選んで提供したいと考えています。時代に即した本を購入し、新旧の本を入れ替えることによって名作は読み継がれ、読みたい本が増え、学習に役立つ本は新しくなります。これに伴い近年、貸出冊数が伸びてきています。貸出冊数をみますと昨年度は約15,000冊ありました。

貸出冊数の推移



中学1年生に入学し、楽しく読める読みものを次から次に読んでいく生徒が大勢います。年間で一人の生徒がどのくらい本を借りているか調べたところ、中学1年生では300冊近く、中2、中3では200冊近く、高校生になると、本の傾向が変わってくることもありますが100冊近くの本を借りている生徒がいます。長期の休みには貸出冊数に制限を設けないので生徒は嬉しそうに本を抱えて帰ります。貸出冊数の割合は文学が約8割を占めています。読書の傾向は、中学生には日本人作家や外国人作家がヤングアダルト向けに書いた本やファンタジー作品に人気があります。中学3年生ぐらいからは、しだいに楽しい読み物から離れ、現代の作品を読み始める時期に入ります。高校生向けにも話題の作品を吟味して購入しています。最近はインターネットから生まれる作品や、中高生とあまり年齢の変わらない作家の作品も多く、図書室でも生徒の希望になるべく添えるようにと考えて選書しています。高校生になると貸出冊数が減少していく傾向にありますが、本を読まなくなったわけではありません。読書の範囲が広がるにつれ、各自で購入している様子がうかがえ、中学生で培われた読書の習慣が根付いているように見受けられます。最初は面白い読み物から始まり、読書量が増えるにつれ、文学作品にじっくりと取り組む生徒が必ずいます。

1994年から図書館運営にIT技術を導入し、パソコンソフト「情報館」を使用しています。利用が増えるにつれ、当初は1台しか設置できなかった蔵書検索機を5台に増やしました。探したい本があるときは、まず検索機にキーワードを入力し、本棚に探しに行きます。検索機で探すことにより、広範囲の分野に散在している本を探すことができます。また、貸出しの増加に伴い、昨年からカウンターには2台のパソコンを設置し、混雑時の貸出、返却、予約に対応しています。インターネットも利用できるように3台のインターネット検索用パソコンを置いています。調べ学習や休み時間など本と併用して調べものをしたいときに利用されています。インターネットを使用する場合は、コンピュータ教室と同様に、それぞれが持っているユーザー名とパスワードを入力して利用することになっています。蔵書点検も以前は図書活動委員を総動員してカードと照合しながら行っていましたが、現在は貸出を中断することなく速やかに行うことができます。

図書活動委員会の生徒も図書室の運営に協力してくれています。中学、高校それぞれ委員会を毎週開き、昼休みか放課後に週一回、カウンター当番の仕事があ

幼稚園教諭一種免許課程から

―保育子ども専攻への一〇年―

人間科学科の保育者養成

一九九七～二〇〇七

大学の保育者養成は、一九九七年四月、人間科学科に設置された幼稚園教諭一種免許課程（定員三〇名、以下幼免課程）でスタートしました。六本木時代からの篤い祈りの実、幼免課程第一期生二一名は卒業単位に加えて更に三三単位を履修し免許状を取得、幼稚園に就職した人たちは、今では中堅保育者として活躍しています。その後、再課程認定（平成一二年）を経て、人間科学科幼児教育コースとして課程履修者も各学年百名前後までになりました。

二〇〇七大学改革では、課題であった保育士資格養成課程も新設、人間科学科保育子ども専攻として新たな歴史を刻む道が拓かれ、この一〇年間に重ねられた活動を基に文部科学省平成一八年度「資質の高い教員養成のプログラム」に申請した『経験・省察・連携による教員養成』が採択されました。

保育子ども専攻（定員七〇名）の特色

①建学の精神「敬神奉仕」の基盤に立った教員養成

②人間科学科における多角的人間研究を学ぶ教員養成

③経験・省察・連携の新しい学習形態

（人間科学部教授　飯島千雍子）

学生の声が活かされる体験による伝統の継承・充実・発展

上田保姆伝習所時代から実体験重視とする保育者養成の伝統は、この一〇年間さらなる発展へと尽力してきました。その中、注目したいのが、「学生の声」が活かされる体験です。

例えば、「プレイデー」。幼免課程一期生が四年進級時に、後輩との分かち合いの時を、と声をあげ、スポーツと芸術(劇やダンス)の祭典へと短大時代の全校行事のプレイデーを継承し発展させました。今年度、一～四年生と教職員有志併せて約四百名の大所帯で行われました。また、「収穫祭」は、三年生の活動。焼き芋（キャンパス内の畑で収穫）、クリスマスリース作り等、学生のプランニングによる神様の恵みに感謝する時です。さらに、四年生の「保育ボランティア(新カリキュラムからサービス・ラーニングへ移行)」は、週一回、幼稚園、小児病棟や学童保育等における職場体験学習です。

（人間科学部准教授　森　眞理）

保育子ども専攻カリキュラムから「保育子どもフィールドワーク」

【国内】信州

二〇〇七年九月一一日～一三日、カナダ・メソジスト婦人宣教師による保育者養成のルーツである上田保姆伝習所（一九〇五年設立）の所在地と建物の訪問を起点にして、当時宣教師館内に在った伝習所に隣接した梅花幼稚園（園舎は当時のまま）と、梅花に先立ってはじめられた長野旭幼稚園の現在をたずね、その歴史を学ぶ機会を持ちました。塩入隆氏の特別講義を通して、学生たちは、歴史を引き継いでいるという気持ちを熱く感じ、その地にある保育に接することから個性ある保育のあり方など見聞できる機会でもありました。信州ならではの園庭に稲作や、プルーンの採取などが子どもの手によることに驚き、また食前に子ども一人ひとりが祈り深くある様子などにキリスト教保育の具体性を強く印象にとどめたといいます。また、戦没画学生の記念館「無言館」の見学は同世代の若者として様々な思いを抱いたようです。

現在、建物は下之郷に移築され、旧宣教師館として上田市文化財指定を受けています。

（人間科学部教授　石津珠子）

【海外】カナダ

二〇〇七年九月六日～一七日、参加学生六名、教員二名。オンタリオ州のピーターボロにあるフレミング・カレッジとの提携により、カナダの教育・福祉制度について学ぶプログラムを実施しました。具体的には、カナダの乳幼児教育・福祉に関わる三つの資格を中心として、そのカリキュラムと授業内容、また就職場所や職務内容について、各資格課程の教員や現職者から直接講義を受け、その後、デイケアセンター（保育所）、育児支援センター、公立小学校、児童相談所や知的障害者施設などを訪問しその実践を見学・交流することによって、学習を進めました。学生からは、他国と比較することによって、改めて日本の教育・福祉制度のあり方に気付き、興味や関心が深まったとの感想が聞かれ、良い学びの時となりました。また日曜日にはミス・カートメルを派遣したハミルトンのセンテナリーチャーチを訪問、共に礼拝し、教会の方々との交流と、墓参の時を持ちました。

10日間の研修を支えてくださったホストファミリーの方たちと共に。

（人間科学部講師　山下久美）

かえで祭―増田ゼミ・シンポジウム

国際社会学部 三年 増田桃子

二〇〇七年一一月二日(金)、大学文化祭「かえで祭」において私たち増田弘ゼミの三年生は国際問題のシンポジウムを行った。テーマは、「"自衛隊"が現状の防衛組織ではなく、"軍隊"になったら日本はどうなるのだろうか」。

この増田ゼミ・シンポジウムは、イラク問題を取り上げた二〇〇三年から毎年、文化祭で開催されてきた。議論のテーマからシンポジウムに関する広報すべてを、ゼミ生が行う。もちろんパネリストも全員学生である。

増田ゼミでは普段の学内ゼミ授業のほか、課外ゼミとして中央大学、桜美林大学、明治学院大学、東京女子大学と国際関係・合同ゼミを運営している。当日のパネリストは英和生だけではなく、他の大学からも出席してもらい多様な意見を交換した。

ところで昨年の六月、増田ゼミは国際社会学部の池田明史ゼミと沖縄ゼミ合宿を行い、米軍普天間基地や海上・航空自衛隊の沖縄基地を見学した。そこで在日米軍や自衛隊の現状を目の当たりにし、国防のあり方、自衛隊の意義とは何であるか、といった関心を持った。防衛庁が防衛省に昇格され、PKOなどの国際貢献活動が"重要任務"に格上げされるなど、国際社会における日本の役割が世界から問われている。あくまでも防衛組織としての自衛隊で国際貢献を続けるのか、憲法改正を行い、正式な軍隊として国際貢献を行うのか―学生の間でも意見が二つに分かれ、グループ研究を進めてきた。

シンポジウム当日は、日米軍事協力の必要性、国際貢献のあり方から軍隊化を支持する賛成派や、憲法九条問題、PKO活動の国際貢献から軍隊化を支持しない反対派など、パネリスト五人を中心に自衛隊のあり方について白熱した議論が続いた。フロアのアメリカ人留学生や学生から、「米軍が日本から撤退したら、日本はどう動くのか?」、「日本国民の世論はどう対処していくのか?」といった鋭い質問があった。

シンポジウム開催後の観客アンケートでは、女子大学でタイムリーな国際問題を取り上げたこと、学生主体の討議を行ったことに対する評価を頂いた。今年も充実したシンポジウムになるよう後輩に期待したいと思います。

大学の刊行物から

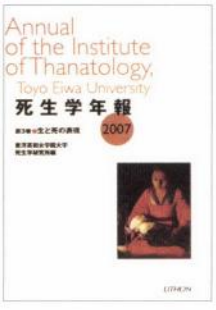
大学の教員たちの教育と研究の成果として昨年、公刊されたもの三点を紹介する。

第一は、英語を担当する専任教員四名と非常勤講師一名による『**英語教育ワークショップ―英語基礎力の向上をめざして**』である。本書は、近年の学生たちの英語学力低下を懸念した教員たちが、英語の基礎力を測定することを目的にテスト問題を作成し、実施した結果を多角的に分析したものである。その成果が本学の英語教育に生かされることを期待したい。本書の閲読を希望する方は伊勢紀美子研究室にご連絡を。

(045-922-7720)

第二は、**死生学研究所編**『**死生学年報**』**第三巻「生と死の表現」**である。本書には八つの個人論文、早瀬圭一研究班による高齢者施設職員調査報告と公開講座の講演録一つが収められている。本書については死生学研究所に問い合わせてほしい。

(03-3583-4035【fax専用】)



第三は、**現代史研究所紀要**『**現代史研究**』**第三号**である。本書には一つの論文と三つの研究報告書、二つの講演会抄録が収められている。本書については現代史研究所に問い合わせてほしい。

(045-922-7272【fax専用】)

ブックレビュー 様々な人間ドラマの魅力

あのミシュラン騒動で、マスコミにひときわ注目されたのが有名な鮨職人である小野二郎だった。どんな分野であれ、道を究めた人には惹きつけられるものだ。

早瀬圭一教授(人間福祉学科)の著書、『鮨に生きる男たち』(新潮文庫)は、いわゆるグルメ本ではなく、小野など一七人の鮨職人の「人間ドラマ」を洒脱に描いており、実に面白い。鮨が好きでなくとも読むに値する本である。

早瀬教授のもう一つの著書『大本(おおもと)襲撃』(毎日新聞社)は、大本教への大弾圧の真相を検証した力作である。本書は、大本教に特に関心がない人にも薦められる。国家と宗教との関わり、宗教のあり方などの問題を考えていく上で、示唆を与えてくれるからである。また、今や忘れられている戦前の凄まじい思想弾圧の実態を、語り継いでいることも貴重であろう。弾圧した側の人々の動向も丁寧に描いている。大本教というと、出口王仁三郎ばかりが語られてきたが、二代教主の出口すみの生涯に注目していることも、本書の特色である。早瀬氏は、出口すみの人物像やその書を紹介し、大本教における彼女の役割を非常に高く評価している。

早瀬氏の著書は、様々な分野にわたっているが、「人間の探究」という点で、一貫しているといえよう。読みやすい達意の文章であることも魅力である。先の二冊とも昨年出版された。

(人間科学部教授 下坂 英)

生涯学習センター―開設十一年目に向けて―

二〇〇七年度、生涯学習センターは開設一〇周年を迎えました。同センターは、大学学部・大学院と並ぶ、大学の三本柱の一つとして位置づけられ、地域にお住まいの方たちのニーズに応えることのできるようにと、運営委員会の妥協しない協議に基づき、講座を企画して今日に至りました。「石の上にも三年」と言われますが、試行錯誤を重ねながらも先見の明にものいわせながら、この一〇年逞しく様々の講座を企画し提供してきました。受講生の皆様の熱心なる参加によって、文芸・教養・語学・音楽・アート・スポーツ・フィットネス・子育てネットワークの講座が定着しました。各分野のロングラン講座に加えて、時代の要請に応じた新しい講座が組み合わされ、常に受講生の皆様の知的好奇心を呼び起こしております。

一〇周年を記念して、記念行事と特別公開講座が企画されました。その特別講座は一冊の記念集にまとめられます。人の学びは、確かに人が人生を歩むための知的文化です。最高学府といわれる大学での学びが、学びの終わりではありません。生涯に渡る学びの姿勢こそが、人としての姿です。十一年目を迎えた本学の生涯学習センターの役割は始まったばかりです。大学の柱の一つとして、今後も地域社会に貢献していかなければなりません。

（人間科学部教授 運営委員　村上哲朗）

2008年度　六本木校地　新講座の紹介		
文芸・教養	「聖書の思想」を学ぶ	春・秋・冬
	選り抜きアメリカ短編集	春・秋・冬
語　　学	英米小説読書会	春・秋・冬
	原作でたどる『赤毛のアン』の世界	春
音楽・アート	ボビンレース　アートセッション	春・秋
	花とやさしい時間～リビングフラワーアレンジメント	春・秋・冬

みんなで楽しむはじめてのピアノ・レッスン

楽しいハワイアンフラ

その他、昨年からの継続の講座が多数ございます。横浜校地でも多くの講座が開講されます。ぜひ講座案内をご覧になり、ふるってのご参加をお待ちしています。案内等のお問い合わせ先は、以下の通りです。

生涯学習センター　TEL 045-922-9707　FAX 045-922-9701

『あるケアのかたち』が日本医学哲学・倫理学会の学会賞を受賞

2005年3月に本学人間科学研究科博士後期課程を修了した鈴木正子さんの著作『あるケアのかたち　病むことの怒りと悲しみ』が日本医学哲学・倫理学会の第4回学会賞を受賞しました。巻末には元東洋英和女学院大学教授の平山正実先生との対談も収録されています。

「あるケアのかたち―病むことの怒りと悲しみ」
鈴木正子著　すびか書房
定価（本体2,400円＋税）

美馬のゆり先生講演「科学する心を育む」

教職員対象の全学院研修・懇談会が2007年11月7日に開かれました。美馬のゆり先生（1979年高等部卒。公立はこだて未来大学システム情報科学部教授）に「科学する心を育む―コミュニケーションと学び」と題して講演をしていただきました。自らの体験を基に、女子の理系教育や組織の構築などに関して貴重なお話をうかがいました。懇談会では池田守男理事長・院長をはじめ教職員が一同に会し、親睦を深めました。

『サーバント・リーダーシップ入門』刊行

池田守男理事長・院長と金井壽宏神戸大学大学院経営学研究科教授の共著『サーバント・リーダーシップ入門』がかんき出版から刊行されました。「奉仕と献身」を信条とされてきた池田先生の経営実績からのリーダーシップ論が語られています。

全学院クリスマス礼拝（教職員対象）

2007年12月7日全学院クリスマス礼拝が行われました。理事・評議員のデービッド・W・ラッカム先生（ICU教授）にお説教いただきイエス様のご聖誕を祝いました。

訃報

心より哀悼の意を表します。

西　昭夫氏	元大学非常勤講師、短期大学非常勤講師、相談室カウンセラー	2006年2月10日
小野寺昭夫氏	元小学部教頭	2007年3月3日
森井　都子氏	元小学部教諭	2007年4月26日
織田　尚生氏	大学教授	2007年5月11日
黒田　成子氏	元短期大学教授、東洋英和幼稚園主任、短期大学学長事務取扱、元理事・評議員	2007年5月24日
竹井美智子氏	元小学部教諭	2007年7月21日
中井　玲子氏	元小学部非常勤講師	2007年9月1日
原　章子氏	元小学部教諭	2007年9月24日
秋月　徹氏	元小学部部長、元理事・評議員	2007年10月17日
内藤寿七郎氏	長年にわたり学院の保健活動に貢献 元短期大学保育科非常勤講師も歴任	2007年12月12日
衞藤　瀋吉氏	元院長、常務理事、理事　現評議員	2007年12月12日

黒田成子（せいこ）先生の「敬神奉仕」

元東洋英和女学院大学教授　元理事・評議員　芝　恭子

東洋英和の保育専攻部が短期大学になった一九五〇年、第一回生のクラスに、「おばさま」と呼ばれて級友の敬愛を集める学生がいました。三五歳で既婚者、教会生活を重んじるクリスチャン、カナダの先生方と自由に英語で語り合う能力、鋭い批評とユーモア精神の絶妙なバランス等に由来した愛称でした。

さて、短大保育科は一九五四年、米国留学から帰国した新進気鋭の教師を迎えます。この人こそ、あの「おばさま」。カナダ人の教授から保育学の授業を引き継ぐ日本人教師・黒田成子先生でいらっしゃいました。

黒田先生の教授姿勢は、専門性の育成と、その土台のキリスト教信仰に貫かれていました。子ども個々のニーズや特質を知る／子どもの暮らしや成長に不可欠な安定感／最も大切な園環境としての保育者―先生のユーモラスな〝脱線〟のお話と共に、今も深く卒業生の心に留まっている教えです。保育者として社会に役立つべく、最低学んだ年月と同じだけは保育実践に就くように、との戒めも。

こうした専門教育の基盤にあったのが、人間はその背景を問わず、神の愛の元で誰もが同じく貴いと伝える、先生の信仰でした。

先生は保育科ご卒業後、カナダ合同教会の奨学生として留学なさいました。その婦人宣教師たちの物語“Crossing World”（伊勢・飯島・石津教授がカナダにて収集）第三章に、Seiko Kurodaの祈りと感謝に満ちた留学生活、婦人宣教師の学院創立、Seiko帰国後の活躍等が、先生の合同教会宛書簡と共に紹介されていることを、折しも知りました。

黒田先生が三〇代半ば、生き方を変えて保育科を志望なさった動機が、ご自身のことばに「召命を感じて」とあれば、一途なお働き振りの訳がわかります。神は正に学内外、国内外と先生をお召しになり、先生はひたすら主に聴き主に応え、み栄を顕す生涯を全うなさいました。

黒田成子　先生

一九一四年生まれ。三歳より一一歳までカリフォルニア在住。一九二七年受洗。同志社女子専門学校卒業。東洋英和女学院短期大学卒業。ナショナルカレッジ・オブ・エデュケーション大学院修了。東洋英和女学院短期大学教授、幼稚園主任、保育科長、図書館長、学長事務取扱を歴任。キリスト教保育連盟理事長、日本保育学会名誉会員。武蔵野相愛幼稚園園長・理事長。二〇〇七年五月二四日永眠。

さようなら　秋月先生

元小学部図工科教諭　山口　孝子

秋月先生、お世話になりました。お別れするのは悲しくつらいけれど、先生から頂いた思い出はしっかりと心にとめていたいと思います。小学部の職員早天礼拝で先生の話されたことは忘れられません。

先生がお若い頃、いっしょに教会学校で教師をしておられた玉子さんと婚約され、一ヶ月後に召集され北朝鮮へ、戦後シベリアに送られ三年間の抑留生活をされたこと。牧師であられた先生の父上が、毎日、玉子さんに便りを出して励まし続けられたと伺いました。帰国されたとき「もう待っててくれないだろうと思ってたら待っておった」とさりげなくおっしゃいました。シベリアでの冬、鉄板を踏み外し夜の海に落ちてしまったお話も聞きました。一本の先の曲った針金を見つけてそれにつかまり、必死で「おーい、おーい、と呼び続けたの。星がきれいでね。」とさらっと言われました。父上と玉子さんのお祈りに支えられた歳月だったのでしょう。

旧職員有志でお見舞いに行く日に私は行けず、後日、相模大野の北里病院に伺い、受付で秋月先生のお名前を告げると、「その方はいらっしゃいません。ご家族に連絡ください。」と言われ、先生のおられた六階の窓をしっかり見ておこうと思って見上げましたが、涙で見えなくなってしまいました。先生、いろいろありがとうございました。また、いつか主のみもとで。

軽井沢追分寮で朝の礼拝後の体操指導をしているやさしい笑顔の秋月先生

秋月　徹　先生

一九一七年牧師を父として東京に生まれる。一九三〇年受洗。一九三七年京城帝国大学入学。一九四三年入隊、終戦後シベリアに抑留、一九四八年帰国。福岡女学院勤務。結婚。一九七一年同女学院中高学校長。一九七五年東洋英和女学院小学部部長。一九八〇年活水学院中高校長。一九八五年から一九九三年までキリスト教学校教育同盟総主事。二〇〇七年一〇月一七日永眠。

聖書の言葉

【受難節によせて】

するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

ルカによる福音書　二三章四三節

「生きる希望をお与えください」
松岡裕子 作

ヴィア・ドロロサ（嘆きの道）をたどり、主イエスはゴルゴダの丘で十字架刑に処せられた。十字架・クロスの語源はクルキアーレ（拷問すること）。当時それは「パッシオ　フマーナ（人類の苦難）」と呼ばれた。その下では執行人のローマ兵達がイエスの外衣を分け合う籤引きに夢中になっている。彼らには頭上の三人の言葉が聞こえないのだろうか。一人は地獄の責め苦の中でもイエスを罵りつづけた。ダンテも『神曲』地獄篇に、焦熱地獄の絶望の中でなお悔改めず傲岸にも神に反逆し毒づく人間の姿を描いた。人間精神にひそむニヒリズムの深淵であろうか。もう一人の犯罪人はイエスを罵る男をたしなめ、自分の人生の罪深さを認めてその刑罰を受け入れた。ただ彼は隣の人物に確かな望みをおいて祈った。「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」（ルカによる福音書二三章四二節）

副院長・牧師　吾妻國年

英和探訪① お茶室 清虔庵（大学）

大学での静かな茶道ブームの拠点、「清虔庵（せいけんあん）」を訪ねました。

軽音楽が響き、ホールでダンスを楽しむ学生が集う大学クラブハウス・アセールの一階。その一番奥にお茶室「清虔庵」があります。大学茶道部顧問の林文先生と、茶道部の皆さんがお茶を立てて出迎えてくれました。

以前のプレハブ建築の部室棟時代のお茶室はとにかく畳を敷いただけの質素なもので、老朽化が進み「ゴーストハウス」のような有様だったそうです。「女子大として、さらには国際社会学部を持つ学院としてお茶室の設置を！」という当時学生部長だった増田弘教授を中心とする熱い願いのもと現在のクラブハウス建て替えの折に「清虔庵」が生まれました。

白木の柱も美しい床の間や炉を備えた「清虔庵」。茶室の名前は校歌の歌詞「神を思ふ清らけきもの」「人につかふ虔しきもの」よりつけられました。

茶道部では年五～六回、大事な節目の時に、また留学生との文化研修としてここでお茶会が行われます。増田先生はゼミ生の卒業時に自ら着物をお召しになりお茶をふるまう、といったような使われ方もしているようです。そういった活動も「清虔庵」のような拠点があればこそ。素敵な英和生たちがお稽古に励んでいる心落ち着く空間でした。

お茶菓子をいただきたい、キモノが着たい、日本文化を身につけたいなど理由はさまざまですが、大学茶道部は今年度部員数42名、学内でもかなりの人気です。

東洋英和幼稚園

●祖父母の会　9月28日（金）
年長組が準備した「バングラデシュを紹介する部屋」「おばけ玉入れ」「たからさがし」を一四〇名の祖父母の方々に楽しんでいただきました。

●父と遊ぶ日　10月13日（土）
年少組・ひよこ組がお父様と小学部の校庭で綱引きなど体を動かして遊び、秘密で用意したプレゼントを日頃の感謝と共に渡しました。

●創立記念日礼拝　11月6日（火）
年長組は中高部のメモリアルチャペルで、年少組・ひよこ組は幼稚園のホールでお母様と共に礼拝を守りました。

●りんご園遠足　11月16日（金）
年長組が上田市の山口りんご園に遠足に行きました。自分でもいだりんごは丸かじりをして、いただきました。

祖父母の会「たからさがし」

大学付属かえで幼稚園

●ワーク
9月22日（土）11月10日（土）
年長組が年四回、一五～一七組の父子で遊具を創り直すなどして働く日。働いた後は家族皆を交えておいしいお昼をいただきました。

●ファミリーデー　10月13日（土）
大学のグランドで年中・年長組の子どもたちの家族が集まって、秋の日ざしの中、身体を思い切り動かしました。

●創立記念日礼拝・音楽会
11月6日（火）
礼拝の中では、宣教師の先生方のお働きを子どもたちにわかる言葉で聞き、神さまを讃美しました。

●アドヴェント礼拝～クリスマス礼拝へ
かえで幼稚園では教会暦より一週間早くアドヴェントに入り、一一月二六日にひとつ目のろうそくに火をつけてアドヴェント礼拝を守りました。（二学期の終業日に親子でクリスマス礼拝を守ります。）

ファミリーデー　ー家族と共に体を動かす日ー

小学部

●六年　修学旅行
9月18日（火）～21日（金）
北海道道東をめぐり、環境について考えを深めました。

●五年　追分の生活
9月25日（火）～28日（金）
五年生の追分の生活では、追分を中心とした信州の文化や歴史に親しみます。堀辰雄記念館や松本城を見学しました。

●一～四年　秋の遠足
10月4日（木）
低学年　葛西臨海公園
中学年　多摩動物公園

●球技会　10月23日（火）
一～三年　ドッジボール
四年　ポートボール
五・六年　バスケットボール

●学芸会
11月30日（金）12月6日（木）
インフルエンザのために五学級が学級閉鎖となったため、二回に分けての開催となりました。

2年生「野ねずみたちの森」

中高部

●体育祭　10月6日（土）
秋晴れのもと、大学のグランドでリレーに騎馬戦、ダンス等、クラスごとに五色に分かれて競技をし、緑組（二組）が優勝しました。

●楓祭　10月19日（金）～20日（土）
今年のテーマは「HOME」。クラブが大講堂や教室展示で活動の成果を発表、体育館とグランドでは招待試合が行われました。入場者は七三四八名でした。

●創立記念日礼拝　11月6日（火）
大講堂で、中学生と高校生別々に部長先生からお話を伺い、英和の原点に思いを馳せながら、礼拝を守りました。

●中学部球技会　11月22日（木）
各クラスのバスケ、バレー、卓球のチームが日々練習を重ね、当日は、クラスが一丸となって試合や応援をしました。

体育祭「棒引き」

大学 大学院

大学

●かえで祭
11月2日（金）～3日（土）
「blooming～華咲く瞬間（トキ）～」のテーマで開催されました。入場者は五七九三名でした。

●チャペルコンサート
11月16日（金）
スコット・ショウ氏のオルガン演奏を堪能しました。

●アドヴェントタ礼拝
11月28日（水）
説教者吉岡良昌宗教主任による礼拝の後、キャンパスを舞台にページェントがあり、最後にツリーに点火しました。

大学院

●後期入学式　9月22日（土）
入学者は人間科学研究科七名、国際協力研究科〇名でした。式の終了後、オリエンテーションがあり、次週から授業が開始されました。

かえで祭「入場者ゲーム」

英和の植物通信
～目を近づければ楽しさ無限～ No.11

絵・文・写真：中池 敏之
（大学非常勤講師：博物館概論等担当
生涯学習センター講師）

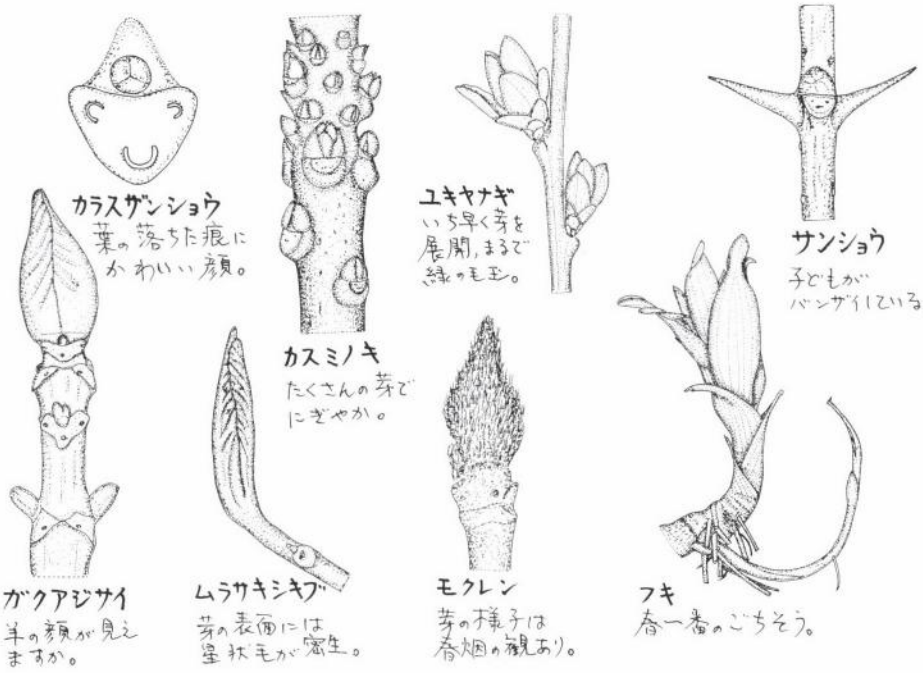
ハリギリ（横浜キャンパス）

ハリギリ（針桐）

横浜キャンパスの林の中には、大きなハリギリが数本あり、また、その若木もたくさん生育している。

この時期のハリギリはすっかり葉を落とし、冬芽はまるで堅固な城砦のような形をしている。若葉は山菜として利用され、方言でアクダラやイヌタラッポと呼ばれる。これはタラノキに比べて味が落ちることからの名前である。しかし、山菜の通にはハリギリの方が旨いという。かつてはハリギリの鋭いトゲは、トゲ画鋲、やじろべえの支点として、子ども達に利用された。

冬季、草木の芽や葉の落ちた痕には個性があり、野外は楽しい。



同窓会より

同窓会クリスマス礼拝報告

二〇〇七年一二月一日、中高部小講堂で井上とも子牧師をお迎えしてクリスマス礼拝を守りました。井上さんは本学院の小学部四年迄在学し、現在日本基督教団むさし小山教会牧師。桐朋学園大学を卒業され、チェリストとして活躍されています。礼拝のお説教に続き演奏されたチェロの響きは私達の魂に神の愛を深く訴え、一同深い感動に包まれました。次に、石原良子さん（一九六三年高等部卒）の導きで冨岡正男先生作曲のトミソングや賛美歌・ハレルヤコーラスを力いっぱい歌い、クリスマスを心から祝うと共に母校への感謝の念を強くしました。

後援会より

二〇〇七年度後援会役員会報告

二〇〇七年度後援会役員会が一〇月一二日にANAインターコンチネンタルホテル東京にて、役員六五名、教職員二八名の参加を得て、開催されました。

今回分科会で協議され、報告された事項は、子ども達の安全対策、クラブ活動の実態、生活指導、学力向上とカリキュラム、教育施設の問題等、多岐にわたりました。

池田理事長・院長をはじめ、各部の代表を務められる先生方は、役員より提起された質問等について、一つ一つ丁寧にご説明下さいました。保護者の皆様の教育に対する関心と期待の高さを、改めて感じさせられました。

後援会は、役員会で出された貴重なご意見・ご要望を学院とともに考え、より良い教育環境の充実を目指して、今後もさらなる努力をしてまいります。

大学オーケストラ部コンサートのお知らせ

東洋英和女学院大学オーケストラ部
第6回定期演奏会
日時／2月17日（日）
会場／神奈川県公会堂
開場／13：30　開演／14：00
入場無料
ホームページ
http://eiwaorchestra.ifdef.jp
メールアドレス　eiwaok@yahoo.co.jp

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展のご紹介

ヴォーリズ博士の建築作品を建築図面や建築写真、関連資料を通じて紹介する展覧会が開かれます。ヴォーリズ設計による東洋英和女学院の旧校舎も紹介予定です。
会場／滋賀県立近代美術館
会期／2月9日～3月30日
東京には2009年3月に巡回展示予定。

東洋英和女学院学院報　楓園　第51号
発行日：2008年2月8日
編　集：学院報編集委員会
発　行：学校法人 東洋英和女学院
東京都港区六本木5-14-40
TEL 03-3583-3325
メールアドレス
koho@toyoeiwa.ac.jp
ホームページアドレス
http://www.toyoeiwa.ac.jp/